

令和3年4月6日(火)

新3年生、新2年生の皆さん、令和3年度が始まりました。まずはめでたく進級されましたことに、心からのお祝いを申し上げます。春休みの間、新年度の高校生活を、どのように思い描いていましたか。皆さんとお目にかかることのなかったわずか2週間足らずの間に、世の中はかくも変化してしまうものか、と驚いています。少なくとも、3月の終業式でこの場に集まった折には、不穏な傾向はあったものの、感染症拡大がこれほど進む予感はありませんでした。皆さんの学校生活を、早く元通りに戻したいことはもちろんですが、世情を見据えながら、もう一度、見直さなければなりません。

ただ、こうした暗い情勢の中で、良い知らせが届きましたので、皆さんと共有いたします。浪人しながら難関大学を目指していた皆さんの先輩から、この春、学習院大学に合格したという報告がありました。夢を諦めず、掴み取った努力を讃え、皆さんも後に続いてほしいと願うばかりです。困難な社会情勢はさておき、このような「希望」を与えてくれるニュースは、私たちを励ます力になるのだと思いました。

「パンドラの箱」というギリシャ神話を御存知でしょうか。まだ、災難というものが無かった世界に、神様はすべての悪と災いを封入した箱を持たせた、パンドラという名前の最初の女性を送り込みます。パンドラは、地上に着くと、好奇心からその箱を開けてしまうのです。すると、中に入っていたあらゆる災いが人間界に解き放たれてしまいました。彼女は慌てて箱のふたを閉じますが、「ここから解放してください。」と、箱の中からか細い声が聞こえます。恐る恐るふたを開けてみると、そこにいた「希望」と呼ばれるものが、人間界に飛び出していった、というお話です。

「パンドラの箱」という言葉は、触れてはいけないもの、開けると何か悪いことが起こるかもしれないものの例えとして使われます。しかし、悪と災いの詰まった同じ箱に、「希望」が入っていたところに、私はこのお話の深さを感じます。人間界に起こる災い、不幸を乗り越える原動力として、神様は人に「希望」を与えたのではなかろうか、そう思います。賛否両論のあることは承知の上で、実施の是非について意見を述べることも避けますが、東京オリンピック・パラリンピックの開催は、コロナ禍を乗り越える「希望」の一つの形なのかも知れません。皆の心を勇気づけ、励ませる何かを希望と呼ぶなら、それは日常の学校生活の中にも、皆さん自身のありふれた活動にさえも見出すことが可能だと思います。少々、飛躍が過ぎたかも知れませんが、暗い世情を跳ね除ける生徒諸君の活躍を期待し、年度初めの挨拶とさせていただきます。